

みなさん、こんにちは！今年の夏は非常に暑いです。適度な冷房と健康によい食べ物を摂取していただいて、適度に体を動かして、暑さに負けず、夏を乗り切ってほしいと願っています。

さて、月一回の教育長だより（7月号）で皆さんにぜひお伝えしたいことがあります。それは、私たち能勢町にとって高校が地域にあることの大きな意義についてです。

文責 辻 新造



1 能勢高校の前身は4つの村の組合立学校だった

能勢町に大阪府立豊中高等学校能勢分校（以下「能勢分校」）があります。もとは、大阪府立能勢高校でしたが、大阪府の高校再編整備方針の流れの中、関係者のご尽力で、今は豊中高等学校の能勢分校としての歩みを続けています。

実は、能勢分校の前身は1946（昭和21）年に東郷・歌垣・田尻・吉川村四か村学校組合立大阪府能勢農林学校として産声をあげました。その後1954（昭和29）年に能勢・西能勢・田尻の3分校を統合して、大阪府立能勢高等学校（全日制課程）が誕生しました。農業科・普通科・家庭科を開設し地域の多様なニーズに応える配慮がなされていました。創設当時から地域とともに歩む学校だったことがわかります。

2018（平成30）年度から大阪府立豊中高等学校能勢分校となりました。人口減少、少子高齢化の影響により、中学生の減少という背景がありながらも、能勢町に高校が存在することの意義は決して揺ぐことはありません。



校舎全景

2 能勢町に高校を残すチャレンジ

能勢町に高校が存続しているのは、能勢分校（旧能勢高校）の関係者のご尽力の賜物だと強く感じています。2004年（平成14年）に総合学科への改編と同時に連携型中高一貫教育が始まり、小中高一貫教育、ユネスコ・スクール、能勢分校への改編、SGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）など、約20年間にわたり様々な挑戦と努力を重ねてこられました。

3 「能勢の高校を応援する会“町ぐるみ応援団”第8回 総会＆応援のつどい」 ～能勢分校の卒業生たちが語る「能勢分校」での学びを～

先日、7月5日土曜日に浄るリシアターで開催された「能勢の高校を応援する会“町ぐるみ応援団”第8回 総会＆応援のつどい」に参加しました。特に印象的だったのは、能勢分校卒業生によるトークセッションです。1期生と4期生から6人の卒業生が登壇し、それぞれの経験をプレゼンテーション、写真、クイズを交えながら披露。小・中・高校時代に培われた人間力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が存分に発揮され、会場は大いに盛り上がりました。登壇された卒業生6人#4、#5をご紹介します。



4 1期生3人 現在23歳 分校卒業生 能勢分校のスタートアップに大貢献

個性豊かな卒業生たちの進路は多岐にわたりますが、中でも1期生は、能勢高校から能勢分校に再編された最初の生徒たちであり、分校のスタートアップに大きく貢献しました。分校の広告塔としてテレビや雑誌などのマスコミ取材を受け、能勢分校の魅力を全国に発信してくれました。

在学中には、能勢分校と能勢町行政の企画で、高校の授業の一部が公開講座として開催され、少子高齢化や地域活性化といった町の課題を高校生と大人が共に考える講座やイベントが多数企画されました。この考えは現在にも受け継がれ、「地域課題×高校生」の探究活動が盛んに行われ、その質的な向上が年々図られています。



◆田村 颯馬さん

久佐々小学校・能勢中学校出身。食農流通コース。能勢町教育委員会主催のコミュニティ・スクール研修会にも積極的に参加。北海道十勝浦幌町への単独農業体験を直訴。高校在学中に北海道での農家民宿とともに食農体験に魅了される。京都の大学では学園祭の運営をこなす。京野菜に興味を持ち、食農に関する企業の内定が決まっている。今回のトークイベントの総合司会も務める。



◆泉 明日美さん

田尻小学校・能勢中学校出身。対人支援コース。能勢町主催のドイツ海外研修に参加。木質バイオマスや風力発電などの再生可能エネルギー、森林教育及び森林行政、シュタットベルゲを学ぶ。帰国後、小学生中学生対象に視察報告を兼ねた授業実施。地元に溶け込み青年団など地域活動にも積極的に参画。この4月から保育士として、のせ保育所に就職して活躍する社会人1年生。



◆中植 航太さん

岐尼小学校・能勢中学校出身。探究コース。高校時代には、能勢町主催ドイツ海外研修、SGHマレーシア研修、マレーシア修学旅行に次々参加。ユネスコ・スクールとして毎年数多くの留学生たちとの交流から日本のサブカルチャーについて深く興味を抱く。大学時代は国際総合政策、地方創生地域活性化を学ぶ。現在、万博のガンプラに関連するエンタメ系商社に就職して活躍する社会人1年生。

5 4期生3人 現在分校卒業2年目 能勢分校の地域魅力化に貢献

能勢分校の卒業生たちが、在学中に培った課題探究や生徒会活動の経験を活かし、夢の実現に向けて力強く歩んでいます。4期生が能勢の魅力情報を発信するなど地域にも貢献。その熱意は後輩にも受け継がれ、能勢町の未来を担う若者として輝いています。高校卒業2年目の若者が語る実体験は、今後の人生を考える上で貴重な示唆を与えてくれました。



◆足立 晴信さん

大阪市立八阪中から能勢分校に進学。探究コース。大阪市から能勢分校まで公共交通機関と自転車で片道2時間かけて3年間通学した。高校2年からは、大阪市内から山下駅まで電車。山下駅から片山口までバス。片山の里山ホストファミリー宅でeバイク駐輪場所を提供していた。電チャ（電動付き自転車）で通学。高校卒業時に大学志望を変更し、山梨県の農業アカデミーで研修生として農業を学ぶ。インドへの旅を経て見聞を広め、現在は自己資金を貯めてフランス渡航を計画する19歳。



◆大城 小春さん

岐尼小学校・能勢中学校出身。探究コース。高校時代1年間、イタリアの現地校へ留学。イタリアの環境を重んじた都市計画や古代ローマの建築物に魅了され、建築に興味を持つ。現在は京都建築大学に通い、1級建築士資格を取得するために学ぶ19歳の専門学校生。



◆山本 虎太郎さん

箕面市立第二中学校から能勢分校に進学。里山留学制度で里山ホストファミリーと地元民宿にお世話になり、能勢分校へ通学。里山起業コース。現在、大阪の大学生。地元の民宿で実質的にバイトリーダーを任されている。得意だった語学を生かし、語学留学か起業かで悩みながらも、現在自己資金を貯めてヨーロッパへの旅を企画する20歳の大学生。

6 全国から能勢分校で学ぶ高校2年生募集中

能勢分校では、内閣府の「地域高2留学」制度を通じて、全国の高校生を受け入れています。この制度は、高校2年生が現在の学校とは異なる地域で1年間学ぶ、国内初の単年留学制度です。全国で19校が対象となっており、能勢分校もその一つに選ばれています。

この留学制度を支えるため、能勢町教育委員会では、留学生を温かく迎えてくださるご家庭を募集しています。ご興味をお持ちいただけましたら、町公式LINEでご案内しているチラシをご覧ください。どうぞお気軽に学校教育総務課までご連絡ください。未来を担う高校生の学びと能勢町の活性化に、ぜひお力をお貸しいただければ幸いです。

能勢分校への地域高2留学にかかる専用Webサイトを開設していますのでぜひご覧ください。

Webサイトのリンク [地域高2留学 | 豊中高校能勢分校](#)
PR動画のリンク [能勢分校地域高2留学イメージ動画 - YouTube](#)
パンフレットのリンク [高2留学パンフレット](#)

7 能勢ささゆり学園×豊中高等学校能勢分校

能勢分校は農場を活用し、能勢ならではの農業学習や全国的に珍しい養蜂学習を展開しています。能勢ささゆり学園と連携し、前期課程はぶどう栽培や体育祭参加、後期課程は授業・農場体験や先輩から学ぶ会等を実施しています。今年は11月14日（金）に、両校が参加する「SDGsフェスタSEASON2」が開催されます。

8 能勢の高校がもたらす地域への光

能勢町と能勢分校が、題材となった地域づくりに関する書籍『「電チャリ通」から考えた地域づくり：高校生と一緒に作った安全な町』（著者：北村友人+国際交通安全学会）という書籍がこの3月に出版されました。

この本は、高校生がe-bikeで地域を見つめ、大人や研究者と連携して安全な町づくりに取り組んだ記録です。若い力が地域課題の解決と活性化に繋がることを示唆しています。

高校生という若い力が地域に入り込むことで、活気が生まれ、地域課題の解決に繋がっていきます。

ご興味のある方は手に取っていただき、お読みいただければ幸いです。

※能勢町生涯学習センター図書室に配架予定です。



9 能勢の未来を担う高校生たち



能勢分校は、単なる教育機関に留まらず、能勢町の未来を担う若者を育み、地域に活力を与える重要な存在です。これからも「町ぐるみ応援団」の活動を通して、能勢分校がさらに発展し、子どもたちが輝ける教育環境が整備されるよう、町としてもしっかりと支援してまいります。

皆さんもぜひ、能勢の高校を応援する活動にご注目いただき、能勢分校の生徒たちの活躍を温かく見守っていただければ幸いです。

これからも能勢町教育委員会は、子どもたちの学びと成長を全力でサポートしてまいります。



この「教育長だより」について、ご意見やご感想がありましたら、ぜひお聞かせください。

[教育長だよりご意見ご感想フォーム](#)